」の前になんだか最近は様子がおかしい。松次郎の「頑固」も「怒り」も筋金入りだったはずだ。 しかし、「孫のチカ

下がる暇がないし、年も考えると身体に良くないわね」と妻の貴代くちゃいけないから」と頼んだ。「そうね、怒ってばかりだと血圧がして下さいね。生まれてくる子供も長~く可愛がってもらわな は余計な口をはさんだ。 孫には目がない松次郎に、花菜は「お義父さんも、身体を大切に

素運動のジョギングなどは好まない。 奄 美 黒 糖 焼 耐だが、ゆっくり時間をかけて走る、有酸 奄 美 黒 糖 焼 がいて考えざるを得なくなった。松次郎にとっての健康は走ることだった。 「お義父さんも身体を大切に」という花菜の言葉に、松次郎は「健康」につ

だった。しかし、ここは花菜の願いでもあるは得意でも、忍耐力のいる長距離走は苦手 「島の超特急」の別名を持つ松次郎は短距離

し、頑張るしかなかった。

時間を作れるが、問題は平日だ。夜は毎晩ハマラソン大会出場を心に決めた。休日は走る目標はあった方が良いと、来年の奄美観光桜 「無理すんなよな。年寄りの冷や水って、良くな 走れない。結局、早めに起きて走ることにした。 んだよ」と、息子の学は、ヤ しまっちゅ伝蔵』を飲まなくてはならないから レヤ し、また親父の悪い クセが

ランニングシューズのひもを結んでは、小学生のように暗い外に松次郎はそれから、雨の日も風の目も、前世紀の遺物みたいな 「私のせいだわ。健康でいて欲しいと言ったばっかりに」と向かって飛び出していった。 始まったと思った。

「心配だから、お父さんの跡をつけて様子を見てくれない」と、を高くしているに違いない。 時間が遅くなっているようだ。一途に距離を伸ばして、ハードル花菜は心配そうに言った。特に最近、ジョギングから帰ってくる

が大きく劣っている。はぁはぁと息づかいが荒く、足音はドタバタ上回っていた。2回り半も年が離れているのに、若い自分の方が体力した。松次郎の走るスピードは跡をつける学の予想をはるかに学は花菜から頼まれた。乗り気はしなかったが、翌日学は早起きを

姿は小さくなっていく。 と大きくなっていくが、前を行く松次郎の

か、階段を上ったりは?と半信半疑ながら、ってしまった。近くに神社の階段がある。まさ路地を曲がったところで、松次郎を見失 よたよたと上った。上りつくと、すぐに拝殿の前で

自分の目の裏が熱くなっていくのが判った。安産の祈願をしていたのだ。それも、毎日。学は神社は、たしか安産で有名な神社だった。親父は ころで休んでいるんだな、と思ったが目に入った。やっぱり、こんなと深くお辞儀をしていた松次郎の姿 その瞬感、強いショックが学の脳を貫いた。この

その週末の夜、貴代は包装紙に包まれた箱

てって」。開くと最新の軽そうな を松次郎に手渡した。「学がお父さんに渡しておい

人に頼ん 始めた。貴代は少しほっと そして、そんなことをすぐ 入っている。「なんだ、あいつ。ジョギングシューズが これでなくっちゃね。した。お父さんはやっぱり、 ブツブツ」と、松次郎は怒り なぜ、こんなものくれるんだ。 んで。相変わらずやな

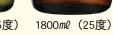
日本で最も美しい村」連合2009年10月喜界島は

喜界町

**73** O

(35%) 鹿児島県大島郡喜 喜界島酒造株式会社 U997(65)O251

900㎖ (25度)











と香りです。

常 圧蒸

昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊 かな自然の中で、永年の伝統 に受け継がれた製法でじっく りと醸しあげた「しまっちゅ 伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に 出し昔ながらのコクのある味



お酒は20歳になってから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児に悪影響を与えるおそれがあります。

http://www.kurochu.jp